



こがにゃんこのさし
ま茶クッキー。好評の
木製タテも、新たな
なっています。せひ、
にゃんことして味の
2匹をセットです。
してください。



2015年3月に誕生したこがにゃんこクッキー。にゃんことして味の形
に型抜きした可愛い形状とシリアルな味わいが好評で、今ではすっかり
古河市民に親しまれる製品となりました。そんなこがにゃんこクッキーに、
このたび新しい「さしま茶味」が加わりました。バター・牛乳・卵を一
切使わない画期的製法により、コクのあるさしま茶の味が活かしています。



さしま茶の味と香りが生きてるにゃんこ

こがにゃんこクッキーに、「さしま茶」味が新登場!!

こがにゃんこクッキー販売店舗のご案内

こがにゃんこクッキーは、現在古河市内の下記店舗で販売されています。お土産や毎日のお茶請けに。一度食べたらやめられない、癖になる美味しさです。贈答用の3個セット箱入りもあります。(箱入りセットは、まくらがの里こが・VAL古河駅ビル・鈴木園のみの取り扱いになります)



道の駅・まくらがの里こが
茨城県古河市大和田 2623



VAL古河駅ビル・華のれん
茨城県古河市本町 1-1-15



3個箱入りセット (さしま茶バージョン)
さしま茶2個・プレーン&ココア1個



古河のお休み処 坂長
茨城県古河市中央町 3-1-39



レストラン サンローゼ
古河市中央町 3-2-5



日本茶専門店 関善
古河市中央町 3-1-41



日本茶事 鈴木園
古河市中央町 1-1-6



ブティック noel
茨城県古河市中央町 1-2-32



手作りのお店 いちばん星
茨城県古河市下大野鍛冶町 736-8

今回のレシピを開発してく
れたのも、パティシエの加
藤晃シエフ。たんぽぽの現
場を泊まりがけで訪れ、職
員や利用者たちに細かな作
業工程を熱血指導してくだ
さいました。



製造しているのは、社会福
祉法人パスナル・たんぽぽ
の利用者たち。型抜きした
クッキー生地を、天板の上
に整然と並べていきます。
きっちりとしたその仕事ぶ
りは、もはや職人の域に達
しているかも……。



こがにゃんこ (写真はしや
む位) の金型で1つずつこ
ねい型抜きをして、クッ
キー生地を作っていきます。
柔らかい生地なので、非常
に繊細さが要求される難し
い作業です。



古河市非公認ご当地キャラクター こがにゃんこ 特集：古河の特産品・さしま茶について 通信 vol.4



さしま茶は、古河の特産品であることをご存じですか？

旧古河市内を歩いていると、日本茶のお店が多いことにお気づきでしょうか。これは、古河が江戸時代にさしま茶の集積地として栄えていた頃からの名残なのです。



日本で始めて海外に輸出された「さしま茶」。



古河総合公園内にあるさしま茶畑

茨城県西部の猿島台地が育む「さしま茶」は、古河・坂東・常総・境という三市二町の誇りともいえる特産品。鬼怒川と利根川に挟まれた肥沃な土壌と、冬の寒さから茶葉に厚みが生まれ、濃厚な味と香りが特色です。江戸時代から生産活動は活発に行われ、江戸へ輸送するための拠点として古河のお茶問屋にさしま茶が集められていきました。幕末には海外交易の必要性に目覚めた地元の豪農中山元成が、全国の名産地に先駆けて日本で初めて「さしま茶」をアメリカに輸出しています。

古河茶専門店会による茶文化普及活動。

江戸時代からさしま茶の集積地として栄えたこともあり、現在でも旧古河市内には多くの日本茶販売店が軒を連ねています。それだけではなく、伝統あるお茶文化を普及させるために古河茶専門店会を結成。総合公園内における日本茶畑の栽培管理（古河市からの委託）や、ふるさと古河新茶まつり、お茶を使ったスイーツ等の開発をすすめています。古河の特産品でもある「さしま茶」を、重要な観光資源として広めたいという事業者たちの願いが込められているのです。



抹茶ソフトが若い人たちに人気を博している鈴木園

複数事業者の協働によるさしま茶クッキー開発。



古河茶専門店会事務局（関善のご主人）の関照美さん

「こがにゃんこのさしま茶クッキー」の特色は、現在では希少な存在となってしまった旧・古河市内の茶畑で栽培された煎茶を使っていること。鷹見泉石や土井利位を中心とする歴史普及活動という観点から、非常にこだわったポイントでした。しかし、さしま茶協会や生産者組合の本拠地は古河市ではなくすべて境町。実現は難しいかと思われましたが、古河茶専門店会と出会うことによって一挙に企画が実現することになりました。複数事業者との協働によって新製品を生み出すことは、まさにこがにゃんこプロジェクトがめざしている目的そのものです。

「鷹見泉石普及活動実行委員会」の再開を！

しかも古河茶専門店会の事務局を担当する関照美さん（関善ご主人）は、鷹見泉石普及活動実行委員会の事業振興部門を担ってきた人でもありました。古河歴史博物館の開館と共に、歴史の町・古河をアピールするために古河市が始めたこの活動も、次第に停滞化していきます。委員会が立ち上げた活動として現在でも残っているのは、8月に古河歴史博物館のまわりで開催される「夢あんどんと夕涼み（灯籠祭り）」だけ。そんな状況のなか、「こがにゃんこのさしま茶クッキー」の企画が持ち込まれたわけですから、関さんは古河茶専門店会として喜んで茶葉を格安で提供してくれたのです。会員事業者である石川久さん（鈴木園ご主人）も、試作品の開発中に貴重なアドバイスをしていただきました。関さんは「こがにゃんこのさしま茶クッキー」をきっかけにして、「もう一度、鷹見泉石普及活動実行委員会を再開させよう」と意欲満々です。ぜひとも古河の歴史普及活動が活発になることを、こがにゃんこプロジェクトでも期待しています。